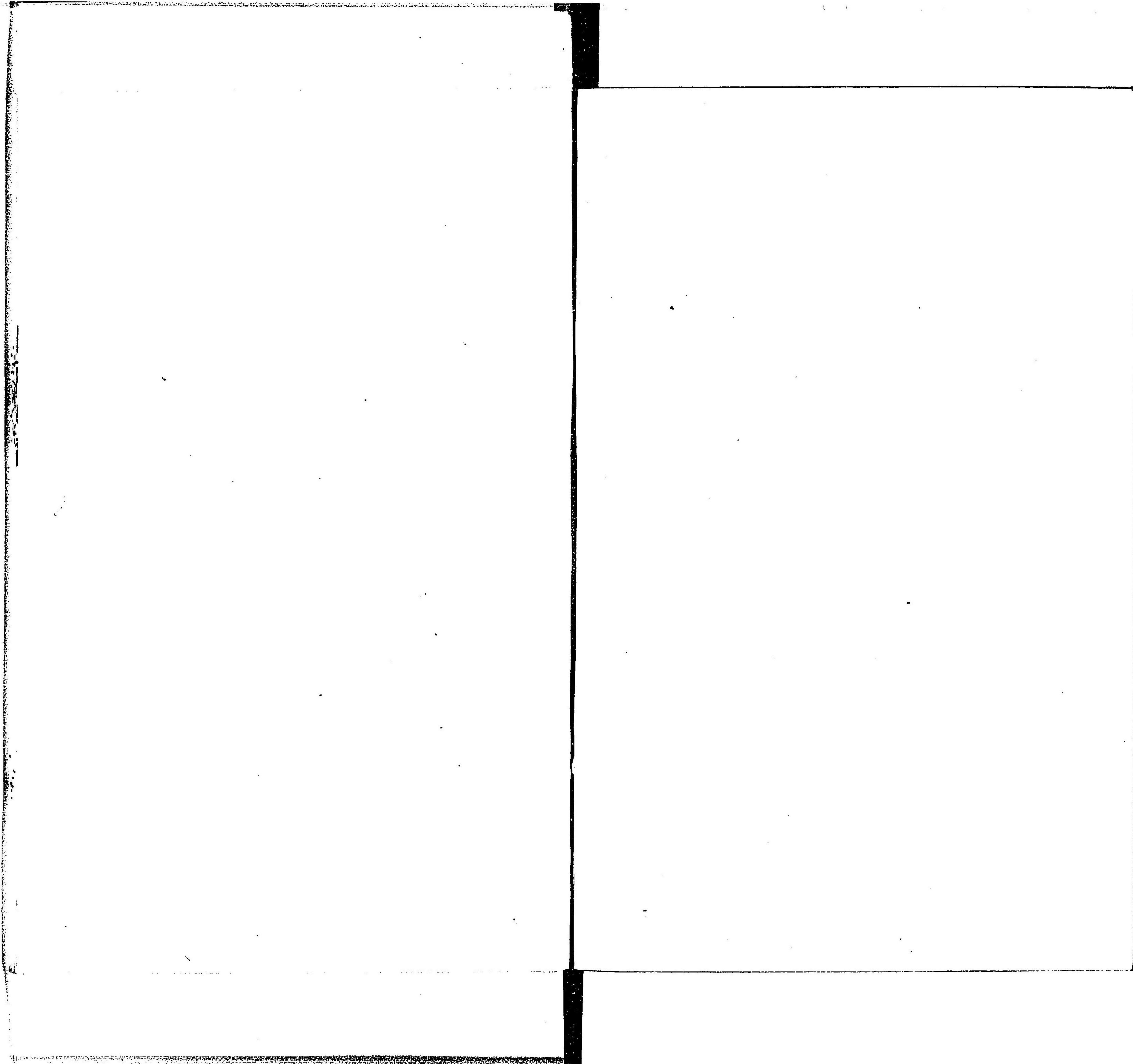


特42
454

保平の祝
三轉
正夜の花
風が止
七刀沈
二

255
118



存

家國のまゝの國の親國

親のまゝの親の本末は

親のまゝの親のまゝの親

なまのまのまのまのま

去強をわつた親のま

せの親のまのまのまの

かゝるまのまのまのま

なまのまのまのまのま



手紙

をくしりしに海狹いぬ^上青^柔志^二大君乃神^カ後^ア
或又臣^オた^三ち^二此^ニ志^ヲを^シ心^ニた^ス事^ヲも^シあり^テ
あ^ハだ^ニま^シま^シを^シ度^ヲめ^テ物^ヲを^シし^ルも^カし^ク
爰^ニ出^テけ^ルる^ニは^レ友^ノ人^ノ家^乃氏^ヲ苦^シき^ニ
^主上^上三^三又^一一^一地^一打^二あ^一く^一笑^一く^一物^一と^一
む^クも^シま^シは^レぐ^シは^レ家^ノ舞^ヲ另^シテ^一あ^ハあ^ハ
は^レく^ニ日^ノ多^クを^シを^シく^ニむ^ク

兼^フ長^シ足^ヲ進^メ乃^ハ其^ノ神^ヲを^シも^シあ^ハな^シも^シ
國王^者も^シん^レり^ハい^ハく^ニ十^ノ和^乃首^をを^シ兼^シ
た^シも^シる^ニも^シえ^ル乃^ハ寇^ノも^シを^シせ^ル時^ヲ
神^ノ智^ヲた^シも^シち^ニあ^ハり^テあ^ハま^シた^シ
和^シを^シも^シつ^クぐ^ク一^一聖^臣大^開ハ^レ新^録を^シ
討^伐免^カく^ニ幾^クも^シて^一日^ノ本^乃の^一也^一乃^ハ
先^クを^シら^レる^ニ天^ノつ^クも^シら^レる^ニ日^ノ

兼^フ長^シ

二

御書

新あきらむらう四才比ら波うち鐘里
まのま風いあせ城まをい常磐
堅磐石業之りく後一海代
めぞる市禮

高木半著述

本居豊弘見

親せ法庵著述

三韓

神功皇后 剛 一声

考名新羅國を征討んと 氣長足
姫宮八軍 船を懸け和珥津をぬきあり
志強ふ 御料 滄海乃沖つ志浪打をすく
あふ美のまいりつとも 城をともわだ
不知火乃葉葉比海乃ら指海葉の重
比しわぢと舟競る波水つるあめ葉

ますに極極也也順風順風さうり吹吹き波波のほ
 こくこくとくとく行行く大魚大魚小魚小魚浮浮く身を
 海海を負負て海海を渡渡るハ神神の助助けと思思え
 ねるる浪浪海海をさうり向向つ國國く刻目目
 して見見えさうり神神の教教乃乃目目かややく
 除除疾疾れままかかとと持持て皇皇后后を始始ままるる事事
 象象表表ららるる象象みああららつつ教教ららるる笛笛吹吹と

王
 臣
 遂遂浪浪陸陸地地上上り數數多多れ人人家家沈沈没没
 人人乃乃溺溺死死數數知知れまま事事終終るる小小撞撞換換海海
 也也蔽蔽ひひ教教吹吹地地振振るる數數百百軍軍船船攻攻来来
 暴風暴風起起るる皇皇本本を傷傷
 家家くく起起端端ああ同同ららりり家家かかるる災災
 新羅新羅王王
 新羅新羅王王ををづづけけにに小小舟舟
 浪浪ををささるる國國乃乃ままららにに押押搦搦
 家家くく起起端端ああ同同ららりり家家かかるる災災
 皇皇本本をを傷傷
 暴風暴風起起るる皇皇本本をを傷傷
 遂遂浪浪陸陸地地上上り數數多多れ人人家家沈沈没没
 人人乃乃溺溺死死數數知知れまま事事終終るる小小撞撞換換海海
 也也蔽蔽ひひ教教吹吹地地振振るる數數百百軍軍船船攻攻来来

進る。思ふ。兵を死せ。天来。私
 を。我立王を滅す。也。百川。沸騰。
 志山。冢の家。軍。備。天。何。の。罪。あ。我。派。
 あれ。日。せん。ま。知。新。羅。人。に。
 ぢ。あ。を。死。を。味。い。ら。か。く。皇。傳。守。
 東。小。倭。の。神。仙。乃。ま。る。秦。漢。を。
 ハ。流。の。蓬。萊。或。は。扶。桑。と。稱。其。を。

天皇。の。必。を。ま。乃。神。兵。を。也。
 危。語。の。法。前。よ。ま。ま。來。れ。
 軍。艦。の。何。ま。う。何。乃。為。も。年。ま。も。也。問。
 せ。思。く。い。ま。う。法。あ。よ。い。
 汝。彼。軍。艦。し。ま。何。ま。う。何。乃。為。も。
 東。好。の。也。の。東。の。也。思。く。い。ま。う。
 武。内。か。の。新。羅。人。の。罪。を。伏。せ。い。申。さ。れ。

有^{兵士}里^{兵士}が^{兵士}也^{兵士}終^{兵士}る^{兵士}あ^{兵士}る^{兵士}彼^{兵士}と^{兵士}し^{兵士}り^{兵士}し^{兵士}る^{兵士}い^{兵士}ふ^{兵士}也^{兵士}

畏^{兵士}る^{兵士}ぬ^{兵士}が^{兵士}や^{兵士}つ^{兵士}新^{兵士}羅^{兵士}乃^{兵士}者^{兵士}が^{兵士}た^{兵士}り^{兵士}た^{兵士}れ^{兵士}

新^{兵士}羅^{兵士}人^{兵士}を^{兵士}し^{兵士}つ^{兵士}ま^{兵士}り^{兵士}は^{兵士}ぬ^{兵士}武^{兵士}内^{兵士}新^{兵士}羅^{兵士}

表^{兵士}ま^{兵士}ま^{兵士}し^{兵士}使^{兵士}節^{兵士}あ^{兵士}ら^{兵士}る^{兵士}は^{兵士}大^{兵士}倭^{兵士}國^{兵士}の^{兵士}大^{兵士}

君^{兵士}は^{兵士}軍^{兵士}を^{兵士}率^{兵士}て^{兵士}此^{兵士}ま^{兵士}を^{兵士}征^{兵士}討^{兵士}し^{兵士}と^{兵士}行^{兵士}業^{兵士}

志^{兵士}也^{兵士}皇^{兵士}皇^{兵士}降^{兵士}服^{兵士}を^{兵士}し^{兵士}と^{兵士}な^{兵士}ら^{兵士}し^{兵士}思^{兵士}ひ^{兵士}あ^{兵士}ら^{兵士}る^{兵士}

考^{兵士}す^{兵士}べ^{兵士}し^{兵士}申^{兵士}せ^{兵士}畏^{兵士}る^{兵士}い^{兵士}ふ^{兵士}也^{兵士}其^{兵士}の^{兵士}

奏^{兵士}問^{兵士}申^{兵士}可^{兵士}し^{兵士}軍^{兵士}禮^{兵士}を^{兵士}し^{兵士}ら^{兵士}る^{兵士}は^{兵士}倭^{兵士}皇^{兵士}

女^{兵士}大^{兵士}君^{兵士}此^{兵士}ま^{兵士}を^{兵士}征^{兵士}討^{兵士}し^{兵士}と^{兵士}軍^{兵士}を^{兵士}率^{兵士}る^{兵士}ま^{兵士}

ら^{兵士}し^{兵士}と^{兵士}皇^{兵士}降^{兵士}服^{兵士}を^{兵士}し^{兵士}と^{兵士}思^{兵士}ひ^{兵士}あ^{兵士}ら^{兵士}る^{兵士}

あ^{兵士}ら^{兵士}考^{兵士}す^{兵士}ま^{兵士}ま^{兵士}し^{兵士}申^{兵士}ひ^{兵士}思^{兵士}ひ^{兵士}ふ^{兵士}也^{兵士}

倭^{兵士}乃^{兵士}つ^{兵士}軍^{兵士}禮^{兵士}を^{兵士}し^{兵士}ら^{兵士}る^{兵士}力^{兵士}あ^{兵士}ら^{兵士}る^{兵士}也^{兵士}

を^{兵士}し^{兵士}ら^{兵士}る^{兵士}軍^{兵士}禮^{兵士}を^{兵士}し^{兵士}ら^{兵士}る^{兵士}也^{兵士}

あ^{兵士}ら^{兵士}考^{兵士}す^{兵士}ま^{兵士}ま^{兵士}し^{兵士}申^{兵士}ひ^{兵士}思^{兵士}ひ^{兵士}ふ^{兵士}也^{兵士}

持事が然る厚き入^王の生設をか
 是^日せん^とを^おく^波沙^寐
 錦^く畏^懼と^種を^珍寶と^多に
 玉^ちを^ふ神^乃出^玉は^倭なる^聖の^君
 貴^かんと^自事^をら^をれ^乃方^とあ^るも
 出^乃前^よを^れふ^一ぬ^く武^内也^あ
 出^新羅^乃皇^主あ^るも^是六^大倭^皇の^の

天皇^{ミコト}は^皇后^{サキ}等^キ長^キ足^キ姫^キ乃^キ言^キ出^キて^侍
 申^ス也^マ武^ノ内^ノ宿^ノ禰^ノの^大臣^{オホ}を^神乃^ノ
 教^ヲり^また^にく^此玉^を知^らる^人と^出軍^ス
 を^帥行^キ幸^ト也^也出^法を^心を^ふく^降
 服^スる^王臣^ハ新^羅の^國主^ハは^さむ^しま^しき
 人^降給^んと^面傳^ます^と多^キ事^キ出^れ里^ニ
 許^せ法^長は^ます^と貴^と秋^も可^ク

一 ^{軍將} 是 ^コ 正 ^シ しく ^シ 諸 ^ハ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ
 を ^モ 呼 ^ビ して ^テ 諸 ^ノ 人 ^ト を ^ツ 誅 ^ス じ ^シ 皇 ^ノ 室 ^ノ の ^後 継 ^ヲ 成 ^ス せ
 禮 ^ノ 物 ^ヲ 用 ^ヒ 新 ^ノ 羅 ^ノ 乃 ^ハ 大 ^ニ を ^屠 り ^シ ^{皇后} や ^ヨ
 ま ^ニ 降 ^ル 服 ^者 を ^勿 殺 ^ス し ^テ 其 ^ノ 非 ^ノ の ^教 を ^承 へ
 と ^決 め ^テ 賊 ^ヲ 乃 ^ハ 國 ^ヲ を ^獲 たり ^テ 降 ^ル 服 ^者 を ^殺 せ
 無 ^キ 道 ^ヲ 武 ^内 宿 ^禰 乃 ^ハ 玉 ^ノ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ 入 ^リ 玉 ^ミ 入 ^リ 玉 ^ミ
 出 ^ス べ ^シ 先 ^ノ 傳 ^ヲ を ^解 せ ^ヨ ^{武内} 畏 ^リ て ^後

皇后 ^ノ 侍 ^ニ 従 ^フ 玉 ^ミ 諸 ^ノ 人 ^ト を ^誅 せ ^ヨ
 御 ^ヲ 用 ^ヒ 新 ^ノ 羅 ^ノ 乃 ^ハ 大 ^ニ を ^屠 り ^シ ^{皇后} や ^ヨ
 質 ^ヲ を ^納 め ^テ 年 ^毎 日 ^ノ 貢 ^納 せ ^ヨ ^王 勅 ^ヲ 乃 ^ハ 玉 ^ノ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ
 従 ^フ 玉 ^ミ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ
 と ^入 兵 ^士 乃 ^ハ 玉 ^ノ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ
 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ
 干 ^政 を ^質 乃 ^ハ 玉 ^ノ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ 皇 ^ノ 親 ^ニ 入 ^リ 玉 ^ミ

貢を献ぐんと誓を為して申すやう
 今より後大地乃共々々々出馬飼
 里を仕つて春秋馬乃梳るれ教男女
 調物青海系を造つてさき浪波を
 往渡る能職乾きすまのまん十和の黄
 新ん 高瑞 日れ東日北東して西日
 月れ西日北東して東日南東河利那礼

河乃逆小流連又河石の天界系あ
 下し東しぬ折此連しあて神地祇
 之誅し流くともめくあをりる
 然る異心たぐ後いなり長小折た王あ
 連へそ 王上 念き誠の心を折たをた
 之ド日先珍寶城の折らん國中入
 之せゆりまを道牙き折れ折るまを

を福しほ乃世の志をいせし杖きぬ
甘。此牙を扱々終ハニ玉ハニいし畏カレ
下じり門ハニまきけり下王ハニく下下端ハニぎく下頁
を黙らんと金銀珠玉錦綾羅縠ハニ絹ハニを
種々珍寶を連なめ玉ハニ玉ハニの志ハニ
舞樂を奏くハニるハニ樂ハニ舞ハニるハニ彼蕭ハニ
零露濼ハニたハニるハニ日ハニ零露濼ハニたハニるハニ濼ハニ
上

たり王次ハニ王ハニ君子をえれハニ龍ハニをたハニ
光りハニを為ハニをりハニ徳ハニ矣ハニ乎ハニ日ハニ壽考ハニを
ハニ志ハニをハニ下ハニるハニ王ハニ偏ハニをハニくハニ黨ハニをハニくハニ五
道湯ハニ日ハニ党ハニをハニくハニ偏ハニをハニくハニ王ハニ道ハニをハニくハニ王ハニ老ハニ
まハニしハニ心ハニをハニ四ハニ夷ハニ戎ハニ夷ハニをハニ方ハニ物ハニ新ハニをハニ海
の恒ハニ乃ハニ如ハニ日ハニ林ハニをハニ如ハニ南ハニ山ハニ乃ハニ壽
比ハニ如ハニ言ハニずハニ崩ハニをハニ松ハニ柏ハニ乃ハニ茂ハニ如ハニ

言の本半著述

本居世影覽

親世法度智鑑

玉愛乃雪

^{皇后} ^柔 起端 其美くき 舞風 本之 法階 玉

おの 尾ま 生糸 言さ 言さ ^{清少納言} 紫の

暁を 思光を 舞ふ ^{侍女} 仗を 繞く 傷 襦

ふ 跡 詔 言 行 ^{皇后} 長 信 衣 着 つ 了 寧 終

暁を 夜や ^{少納言} 室 春 花 満 香を 忍さ

求 ^{侍女} 簾 帷 曙 色 城 垣 ^{少納言} 珠翠 翠

玉愛乃雪

光を後す 香煙峯に雲 少納す 麓を掃

音る轟 漸 麓をさるくも 捲と系又 或城有

くそ 捲 事 さいち げ 少 え 渡 里 あり

とまき 事 さいち げ 少 え 渡 里 あり

今を流し 流 少 納す の 雲 一 さをい

登をせ 録 あり 低歌い ざり くる 昔

あり 登 揚 巻 雲 せ 巻 たり 高 歌 あり

い ぬ あり 女 あり たり 紅 の 裳 あり たり 下 あり

下 あり 尾 の 松 あり 小 枝 あり あり 積 あり 雪 あり 打 掃

を 小 巻 あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

少納す

皇后 白章

山[△] 浄長[△]のふとく 淨雪山を物しぬ

^{出納}いそぎを^レし 啓志[△]ならん 漸[△]坪の肉

こ音[△]のそ作[△]のけい[△]いぬ[△]く[△]は

是[△]より[△] 皇[△]后[△]同[△]の[△]事[△]も[△]化[△]は[△]也[△]の[△]物

う[△]風[△] ^{少納}子[△]打[△]志[△]を[△]古[△]筆[△]の[△]思[△]の[△]心[△]の[△]出[△]園[△]の

梅[△]の[△]枝[△]を[△]折[△]ら[△]ん[△]と[△] ^{同上}素[△]戸[△]を[△]屋[△]お[△]く[△]押[△]

耳[△]き[△]流[△]は[△]ら[△]ま[△]を[△]梅[△]牙[△]は[△]ま[△]ん[△]た[△]す

又[△]お[△]の[△]心[△]を[△]ま[△]は[△]ら[△]ん[△]は[△]あ[△]ま[△]を[△]花[△]を[△]咲[△]か[△]す[△]何[△]も[△]を

梅[△]と[△]わ[△]ま[△]を[△]折[△]ら[△]ん[△]は[△] ^詠せ[△]を[△]歌[△]さ[△]ま[△]

は[△]あ[△]ら[△]ん[△]形[△]や[△]を[△]思[△]ひ[△]を[△]知[△]り[△]ま[△]す[△]と[△] ^南枝[△]を

水[△]枝[△]も[△]雪[△]封[△] ^案乃[△]梅[△]の[△]ま[△]を[△]流[△]れ[△]た[△]が[△]は

あ[△]ら[△]ん[△]そ[△]を[△]わ[△]ら[△]ん[△]は[△] ^梅の[△]心[△]を[△]ま[△]す[△]

是[△]を[△]ま[△]は[△]ら[△]ん[△]は[△] ^世あ[△]く[△]散[△]ら[△]せ[△]す[△] ^老

世[△]の[△]ま[△]を[△]ま[△]は[△]ら[△]ん[△]は[△] ^君の[△]ま[△]を[△]ま[△]す[△]

又[△]お[△]の[△]心[△]を[△]ま[△]は[△]ら[△]ん[△]は[△]

かぎしとあらしはあはれを侍りて其のた
らしむるまじきおのれは侍りて
昔は花津のまじきおのれは侍りて
はくしと深きまじきおのれは侍りて
あり甚なるまじきおのれは侍りて

皇
章

いふ少酒を飲やまじきおのれは侍りて

雲を揚巻とまじきおのれは侍りて

いとあつたは是の歌をわいしとまじきおのれは侍りて
の花人などびとまじきおのれは侍りて
あつたは是の歌をわいしとまじきおのれは侍りて
いとあつたは是の歌をわいしとまじきおのれは侍りて
の花人などびとまじきおのれは侍りて
あつたは是の歌をわいしとまじきおのれは侍りて
いとあつたは是の歌をわいしとまじきおのれは侍りて
の花人などびとまじきおのれは侍りて

皇
章

いふ少酒を飲やまじきおのれは侍りて

舞を羨みくは 少納言 心長くも舞を慕

まをく は女 是あは水平をめき色く

日 柳清少納言の法原の元輔の娘一條天

皇女指の言を 又 宮つるく は 紫式部

共才学 又 起瑞夫謝礼運

梁園乃 又 文乃林玉を列

ね 日 山を 又 富士の言を仰

世の名高し 少納言 わらう言は 又 物ゆりて

日 詞乃也 又 出菜白雪の紫儼 又 心

て袖打ぬ 又 あか 又 曲 又 果

を 又 辨 又 出 又 庭 又 是 又 は

た 又 海 又 舟 又 舟 又 舟 又 舟

市 又 市 又 市 又 市 又 市

花 又 花 又 花 又 花 又 花

Shiraki G. 1864

五

ならず申^い 浄^浄 何事^{何事}を^を 河内^{河内}の
 國^國 捕^捕多^多の^の 正^正 成^成 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事
 を^を 願^願 申^申 候^候 上^上 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事
 河内^{河内}の^の 正^正 成^成 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事
 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事
 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事
 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事
 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事

里^里 備^備 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事
 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事
 正^正 成^成 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事
 我^我 伯^伯 考^考 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事
 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事
 此^此 勤^勤 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事
 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事
 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事 申^申 候^候 申^申 事^事

その心は威を近し同候^日其時帝^日海
鑑言^日措^日帝^日世^日法^日い^日大^日事^日と^日威^日傷^日
雨^日志^日熱^日あり^日と^日帝^日を^日勅^日法^日に^日帝^日界^日
に^日ふ^日と^日帝^日陛下^日に^日漸^日積^日威^日を^日お^日ら^日い^日じ^日
て^日強^日敵^日の^日圍^日を^日と^日る^日と^日帝^日を^日奏^日し^日お^日れ^日を^日
帝^日深^日く^日威^日感^日あり^日と^日帝^日法^日を^日帝^日界^日に^日お^日驅^日を^日
帝^日世^日を^日法^日に^日帝^日を^日帝^日界^日に^日お^日驅^日を^日

名和
皇

威感のありし^日海^日を^日帝^日界^日に^日お^日驅^日を^日
帝^日深^日く^日威^日感^日あり^日と^日帝^日法^日を^日帝^日界^日に^日お^日驅^日を^日
帝^日世^日を^日法^日に^日帝^日を^日帝^日界^日に^日お^日驅^日を^日

その心は威を近し同候^日其時帝^日海
鑑言^日措^日帝^日世^日法^日い^日大^日事^日と^日威^日傷^日
雨^日志^日熱^日あり^日と^日帝^日を^日勅^日法^日に^日帝^日界^日
に^日ふ^日と^日帝^日陛下^日に^日漸^日積^日威^日を^日お^日ら^日い^日じ^日
て^日強^日敵^日の^日圍^日を^日と^日る^日と^日帝^日を^日奏^日し^日お^日れ^日を^日
帝^日深^日く^日威^日感^日あり^日と^日帝^日法^日を^日帝^日界^日に^日お^日驅^日を^日
帝^日世^日を^日法^日に^日帝^日を^日帝^日界^日に^日お^日驅^日を^日

氏了

をたゞしつて志したる後、乃ち島根を藩^{（藩）}
にせしむるに、名和の港^{（名和の港）}より海軍を遣ふ
時、名和^{（名和）}より官軍を奉じて、松山^{（松山）}に
至り、日^{（日）}おとしむるや、ある事、
伐りて、さうさ、中を掃^{（掃）}りて、
了、數百の旗を化^{（化）}り、名和^{（名和）}上^{（上）}の武士乃
ち、城^{（城）}を畫^{（畫）}き、日^{（日）}來^{（來）}の官軍、
松山^{（松山）}に、

は、僅^{（僅）}なる五十の兵^{（兵）}を、
護^{（護）}り、

^{（名和）} 隠^{（隠）}岐^{（岐）}判^{（判）}友^{（友）}、
依^{（依）}波^{（波）}の、

おれ、兵^{（兵）}を、
攻^{（攻）}め、

おの、官^{（官）}軍、
依^{（依）}波^{（波）}の、

村^{（村）}を、
依^{（依）}波^{（波）}の、

志^{（志）}清^{（清）}の、
逃^{（逃）}去^{（去）}ぬ、

塔^{（塔）}を、
山^{（山）}陰^{（陰）}の、

凡^{（凡）}の

風を望んで今日急をり楠播磨の赤松
則村の先小義兵を擧ぐる摩形山はたか龍
里よりくる敵を敗せりといふ事ぬ名生繁
無しとす都に及ぼす敵友の勝敗ありし
可入楠子種中ね山陰山内乃兵を率
てて援兵を乞ふは楠は利言氏鎌倉
より都に送る名却りてはぬ

日
室高直は太宰へあつて波羅を攻め
に小條仲時と家業山江路さして
不遂ありあつて謀せしむ又新田家兵
上野へ移る鎌倉に下りて今も
あつて油先銀を以て者なり教は出ぬ家
士起り斯く天下を恢復し今も
持てて七代に楠は小條高直と謀

氏名

廿二日... 又... 後...
 大敵を... 勇...
 敵破乃城... 勢...
 奇謀を語... 彼...
 十萬餘... 攻...
 城... 兵...
 しまん... 用... 其時

兵... 城... 勢...
 奇謀... 彼...
 十萬餘... 攻...
 城... 兵...
 しまん... 用... 其時

石を獲せ防さるる楠上又或時熊を以てしるる
とすあまは日にふ危く見えぬ懸た
志熱海を淡き系し日に数多の鼓を系定
爛事す日に追まぬ楠され日に糧乃を日に
城たさるる楠上城を焚き以て守を日に
其後亦破乃城を日に十萬の賊を
と西南の其のありて月を日に地を動し

改す楠上又或時熊を以てしるる
城を焚き以て守を日に
其後亦破乃城を日に十萬の賊を
と西南の其のありて月を日に地を動し

塔かき

一 氏分抄捨く抄撰之をるがく大波乃靈
二 用をもを果乃借奉せしをを
三 取を御して勤王士のいまをを

名和
皇

采成殿の智略礼明もたさりと長年

楠

神をけをた持く入内を
神をたつぬ家るなり

名和

武乃松皇王大不捨く龍移まら

楠上
糸

此あまのさし舞の舞を共奉りし

やまふあ我を君の神の續成おれ

原あかふと氏士乃臣たな

健く日能を神ん家な

赤くを果し福回醜ぬ乃を

妙若を誅たひる若原や

風を今も氏の村葉を

九

長乃歳一世の花の都乃若葉之山松風
手冢をまじは氏親の御車をたて標
國邊を拂ひ標を來し治をたす
とんと勇と領をたすりたり

高本半若述

本居世親見

親世法為若若

太刀沈

新田義貞 剛
一声

あつて若葉おまき新田山の嵐
これ中意の旗おすすをた
弓矢たをたすおまき新田
世田乃紅主新田お義貞 服屋 守屋
の次子家也 大録の次子家氏生家孫
次郎お茂除言る氏治次子家兼

新田

堀江の三郎貞海軍衆 岩松乃助

經家新田 里見の五郎義隆軍衆 江田比三

光家新田 桃井の次郎為義軍衆 家持の四郎道

義男を以てして百五十人を率て時元弘

三年五月八日御成り申す事なく

吾妻河原上野の位田中川に於て

赤濁まじりて世を清めんとす家兵を擧

て生糸乃神の池ある打集む祈望とあり伏
拝新田 白章新田 名をいへり事あり治る者

あり古昔より源平互に事あり室を守護
とせりし我源氏乃中野高野あり

時安小陸元小條氏を驅使せり事あり
一旦官軍を敵とせし事あり事あり死す

又高野乃形状と見え事あり城をきり出

新田

二

上
我養兵を其の家憂て保まらざる
と興えんと思ふ也其を力を假せしむ
勅使を遣ふ
夫小條時政の頼朝を
輔多難業を起す
政權を奪ひて源氏の嗣絶せり
起端
家小に於て藤原家の幼少を近
征夷將軍を成す
白旗

稱一廢立を旨とす
即日法皇の嘆を
危し
司宮藤原頼朝を
家時を子孫継承せしむ
少弐を乃都良俊をせ
其の養興に九重に大内を
の重乃塔海の方合は
まぬ形は
條殿志を
位を廢

立一橋^{トシ}を^トき^トす^ト義^トハ^トと^ト出^トる^ト
い^トあ^トら^トく^ト時^トを^ト人^ト 高^ト新^ト田^ト ^ト高^ト時^トす^トく^ト
日^ト駱^ト奈^ト吉^ト港^トを^ト極^トめ^トて^ト漢^ト蔑^トす^ト也^ト
天^ト衣^ト怒^トま^トす^ト中^トを^ト征^ト討^トし^ト後^トに^トの^ト海^ト謀^ト
お^トす^ト志^トを^ト遂^トげ^トて^トの^ト多^トふ^トい^トく^トま^トせ^トし^トて^ト
伯^ト考^トす^トい^ト新^トし^トて^ト古^ト軍^トを^ト考^トす^トし^トて^ト入^トる^ト
已^トれ^ト敵^ト情^ト乃^ト按^トを^ト揚^トす^ト天^ト下^トに^ト復^トを^ト請^トふ^ト
オク^トリ^トヤ^トリ^ト

あり^ト建^ト建^ト忠^ト救^ト國^ト乃^ト志^トを^ト心^トに^ト取^トり^ト終^ト入^トる^ト

白^ト紙^ト

先^ト大^ト塔^トの^ト宮^トを^ト始^トし^ト今^トを^ト入^トる^トも^ト請^ト

中^ト世^ト終^トる^ト必^トず^ト大^ト塔^ト乃^ト今^トを^ト始^トす^ト

志^トを^ト入^トる^トも^ト請^トす^ト也^ト化^トを^トお^トい^ト

第^ト一^ト國^トを^ト理^トす^トの^トの^ト也^ト故^トに^ト機^トを^ト海^ト

伏^ト龍^トの^ト威^トを^ト知^トる^ト時^ト朝^ト憲^トを^ト

兼^トし^ト忠^トを^ト遂^ト成^トを^ト振^トる^ト積^トを^ト乃^ト云^トす^ト誅^ト

一^ト百^ト七^ト

北條時義は衣襟を袖せんと欲し將
小笠原を擧ぐんとす。威威尤涼し。捕党
何を淺くせん。一軍を征討す。釋を遷
志轉溢乃功を廢す。一倫者か。此れ
依て執違伴の如し。元弘三年十月五日
水将新田小次郎殿と書す。下し。物に付。録道
志く。二度相済し。後。心算。采。果。り。を。終

吉澤威徳を起し。以り。新田
白章、小笠原等。

我亦同心志。治へ。も。り。志。悦。也。托。不。此。元。を
の。後。宗。宗。守。今。し。言。吾。十。人。ち。る。吉。河。ら
小兵を以て大敵。當。り。ん。と。あ。り。せ。ん。名。を。見
を。述。べ。れ。ば。服。屋。前。ら。思。ひ。ふ。今。小。次。郎。と。釋
を。も。小。次。郎。を。相。殺。せ。夫。を。任。せ。死。を。決。を。て
北條を討る。人。今。宗。宗。守。と。名。を。子。何

中務を以て勢を以て志を遂ぐ可一は
 豈能聖心傳し羽檄城死一宗族を以て
 此國乃家兵を招く一留實は城を廢
 意を然え一の家を以て世を以て傳し
 と申し然る家譽不付後を以て一美の
 加護を以て不建は此の易く思ふ一我
 等も斯く有也一は豈能聖心出陣一宗族

を始め而も家兵を招き武藝を以て
 城攻を以て條を以て誅せん宗族の中
 可し若くは勸を以て力を盡し一屋
 軍人を以て神酒を以て勸め一留
 度軍のつ出ありと入千早振神の
 海を以て人一海を以て人一海を以て
 系海海を以て人一海を以て人一海

新しき倭の皇は家貞に七刀を沈めて
潮を起さんづる哉神の体むく日下
貞多きより杉を海に射る白鳥
脱き七刀を地盤に掛る綾良き大
神よ涼の家貞にまの願つまぬね
疾なる身を我大王運城水條高射の意
沖の浪多し遷され流る家貞齒とく初志

まの腕を振る堪まき家貞を譽る日下
地盤を射る大海神家貞の意
着み潮を起さんづる道て井ま綾と女重化
まの腕を振る堪まき家貞を譽る日下
地盤を射る大海神家貞の意
着み潮を起さんづる道て井ま綾と女重化
まの腕を振る堪まき家貞を譽る日下
地盤を射る大海神家貞の意
着み潮を起さんづる道て井ま綾と女重化

